

いし はら だ ちょう
石 原 田 町

初瀬街道に沿い町並み

中世・室町時代（西暦一四〇〇年代）の興福寺関係文書に、領地として「字石原田三反」の記録が見えます。江戸時代に入って「石原田村」と呼ばれた町は、幾多の変遷を経て延宝七（一六八〇）年に幕府領となります。集落の南を初瀬街道が東西に通ることから街道沿いに人家が進出し、このころ既に現在の町並みが整い始めていたようです。

宝暦三（一七五三）年に当地一帯を揺るがして「芝村騒動」が起こります。厳しい年貢に耐えかねた石原田をはじめ木原・新賀・葛本・常盤など近隣九か村が、年貢の減免を求めて起こした農民騒動です。

この騒動で年貢が多少減ったものの幕府は、徒党を組み強訴したと二〇〇人にのぼる関係者を江戸に呼び出し取り調べ、騒動にくみした村々から牢死者三八人や死罪一人・遠島四人・追放三二人を出す惨状となりました。

明治一五年ごろ戸数四三戸だった石原田村は、同二二年に耳成村の大字となります。当時の農産物が米・菜種・綿などだったと「町村誌集」が伝えています。昭和三二年二月に檀原市の大字となり、同年一〇月から「檀原市石原田町」となりました。